

▼日程第1 一般質問

〔今泉藤一郎議長〕 日程第1 これより、前日に引き続き、一般質問を行います。11番議員 蒲原多三男君。

〔11番 蒲原多三男君〕 11番 蒲原多三男、議長の許可を頂きましたので、一般質問をいたします。本日は2点です。1点目は、子育て支援と共に晩婚化、未婚化の対策について。2点目、熱中症の取り組みについて伺います。まず、子育て支援の取り組みの現況と今後へ向けた施策についてですが、世間の注目を集めました2005年、今から18年前、平成17年、有田町合併1年前になりますが、出生数が全国で死亡数を上回り、下回りました。死亡数の方が上回ったわけです。それから11年後2016年には出生数が100万人を割り込み、さらに今年の2月、厚労省の発表によりますと2022年昨年の出生数は衝撃的なものでもありました。統計を取り始めました1899年以降で最少となり、80万人を下回りました。79万9,728人との発表でした。2021年の合計特殊出生率全国平均は1.37でありました。有田町におきましては、課長に確認いたしましたが、昨年度の出生数は99人でよろしかったですかね。今までも子育て支援は重要な施策として町も取り組んでこられたと認識しております。この少子化の時により一層の子育て支援が求められます。そこでお尋ねですが、この6月議会で補正予算として計上されました支援策の内容はいかがなものか伺います。また、令和5年度当初予算に組まれている新規事業についても現時点では案としてですが、どちらが先でも構いませんので説明しやすいか、聞きやすいかでお任せいたします。

〔今泉藤一郎議長〕 子育て支援課長。

〔川原子育て支援課長〕 それではお答えいたします。近年、児童福祉費予算は年々増加しており、平成27年度と令和3年度の決算を比較すると決算額で6億300万、一般財源で1億3,100万増加をしております。主な理由としては、国の制度改正に伴う保育料の無償化や保育士等の処遇改善、また障害児発達支援や放課後児童クラブの予算の増加、その他、多世代交流センターの開設等があります。また、令和5年度当初予算においても前年度比1億3,600万の増加となっています。主な事業は、妊娠時と出産後に合計10万円の給付と保健師等による母親の面談の機会を増やし、伴走型支援を強化する国の制度に基づく、出産・子育て応援事業や、おおやま保育園において今年の6月から病後児保育事業を実施しているものがあります。その他、昨年度に引き続き、物価高騰支援として、学校及び保育所等の給食材料費の補助や障害児福祉サービス、放課後児童クラブ、多世代交流センター事業もそれぞれ拡充を行っているところです。このよう

な状況の中、社会では出生数の減少が進行し、少子化対策、子育て支援策のさらなる充実が求められています。有田町においてもこれまで保育料の独自軽減や小中学生の医療費の単独助成、チャイルドシートやインフルエンザの助成など町独自の施策を実施してまいりましたが、今年の、今回の6月補正予算においてさらに、有田っ子出産・子育て応援ニコッと給付金や子どもの医療費の助成対象を高校生までに拡大、また伊万里有田共立病院小児科の初診時選定療養費補助などを行うための予算を上程しています。有田っ子出産・子育て応援ニコッと給付金は、令和6年4月以降の出生児に対し、出産祝い金として1人10万円、また令和6年度に小中高校に入学を予定している児童の入学のための準備金として、今年度1人5万円の給付を行う予定です。この入学準備金については、県内を調べたところ随一の施策ではないかと思っております。出産祝い金については令和4年度から実施している妊娠・出産応援給付金の妊娠時、出産時の合計10万円に加え、さらに10万円の上乗せを給付を予定し、有田町の少子化対策の目玉として人口増を目指し実施していきたいと考えています。なお、この給付金事業については、当面3年を目途に実施し、それ以降については、事業の効果等を勘案しながら検討が必要と考えているところです。

〔11番 蒲原多三男君〕ありがとうございます。今もお話し頂いたかもしれませんが、6月補正の子育て支援事業は町独自の施策として捉えてよろしいのでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕子育て支援課長。

〔川原子育て支援課長〕今回の補正予算に計上している事業のうち、有田っ子出産・子育て応援ニコッと給付金と伊万里有田共立病院小児科の初診時選定療養費補助、子どもの医療費の助成対象を高校生まで拡大する事業については、町の独自施策として、ふるさと応援基金などを財源に実施したいと考えています。現在、児童福祉費で実施している子育て支援事業は国や県の交付金を活用した扶助費的なものがほとんどであり、今後も拡大や拡充が想定されます。さらに国の異次元の少子化対策による新たな事業が出されれば交付金等を活用しながらできる限り積極的に取り組んでいく必要があると考えています。

〔11番 蒲原多三男君〕ありがとうございます。国としても子育て支援は大変な重要施策として捉え、まだ決定ではありませんが子育て予算として3兆円規模と言われていましたが、数日前には3兆5,000億ぐらいの予算との発言もありました。予算金額はまだ定かではありませんが、いずれにしても県を通じてかなりの交付金、子育て支援に限った補正が予測されます。有田町としましても、これまで取り組み以上の課題、施策をとと思いますが、今後の国の施策との関連、また未定部分もありますので数的、あるいは金額、予算等については触れにくい面もあると思

ますが、先ほどの子育て支援策のさらなる拡大や新たな子育てへの取り組み、思い、方針など現時点での考えがありましたら松尾町長にもお伺いしたいと思います、いかがお考えでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕子育て支援課長。

〔川原子育て支援課長〕それでは私の方から国の施策について少し説明をさせていただきます。現在、公表されている国の素案によると、2024から26年の3年間で年額3兆円半ばの追加予算を投入するとされています。主な内容は、児童手当の高校生までの拡大と所得制限の撤廃、第3子以降の額を3万円までに引き上げ、その他、子ども誰でも通園制度や育児休業給付の増額などが謳われています。児童手当の拡充では、町の試算額で年間約1億5,000万円の増を見込んでいます。また、子ども誰でも通園制度については、子ども家庭庁から定期的な一時預かりモデル事業の採択を受け、町内の2園で実施を予定し、今議会の補正予算に944万円を上程しているところです。その他の施策についても町内の状況を見ながら必要に応じ取り組んでいきたいと考えています。

〔11番 蒲原多三男君〕ありがとうございます。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕今、国の予算関連に関しましては、担当課長からお話あったように考えております。やはり先日ですね、自民党の佐賀県連大会に茂木幹事長をお見えになって、その時に子育て支援の方のお話も少し触れられました。やはり今、国も異次元のことを考えられていますので我々もなかなか実態がつかめないというのが現状であります。国がやっていることと全く違うことをやるべきというところもありますし、国がされることに上乗せするというようなこともありますので、しっかりその辺の国、県、我々としてしっかり支えていけるような取り組みをするべきだと感じております。

〔11番 蒲原多三男君〕ありがとうございます。少子化という時代の中で子育て支援という政策にて、何かこれを一つやればすべてが上手くいく、全てが解決すると言い切れるものがあればそのことに集中全力でより良き方向に向かっていくと思いますが、現在の出生率、出生率は結婚した夫婦の出生力の低下ばかりではなく、そもそも結婚する人が減ったり、結婚のタイミングがかなり遅いという見方もあるのではと思います。重点的に取り組んできたのは子育て支援であり、そのターゲットは独身者ではなく、既婚者が主になっていたのではないのでしょうか。この件の認識については町長のお考えありましたらお尋ねしたいと思いますがいかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕議員の質問にお答えいたします。国立社会保障人口問題研究所によりますと、50歳まで1度も結婚したことがないという方が2020年度で男性28%、女性が18%となっております。30年前までと比べますと4倍から5倍に増えているということです。一方、夫婦の平均子ども数は1.94人で、こちらは30年前とほとんど変わっていないというのがデータとしてあります。未婚化、晩婚化が少子化の要因の一つとしてあると考えられます。国が示しました少子化対策素案においても若い世代が結婚、子育ての将来展望が描けないことが課題の一つとされています。ただ、結婚につきましては、当事者の同意に基づくものでもあります。また、有田のように小さなコミュニティだといろいろと差支える部分もありますので、施策を実施することはなかなか難しい面もありますが、知恵を絞りながら若者の定住支援とか結婚支援にも取り組んでいく必要があるかなと思っております。

〔11番 蒲原多三男君〕ありがとうございます。パネルを1番目出して頂いてよろしいでしょうか。コーホートとは、出生年代に生まれた女性がある特定期間に出生をした人口集団のことです。年齢別の出生率と累積出生率によりますと、20代前半の出生率は0.32、20代前半、ここですけれども、1990年代前半ではその半分にまで減っています。20代後半の下落幅もかなりのものがあります。30代前半の出生率は世代ごとに見てあまり変化がない。30代後半は増えているが、30代後半ですね。20代の出生率の大幅減を補えるまでには至っておりません。子育て期への充実した支援が結婚を促す可能性も大いにあると思いますが、晩婚化、未婚化の対策を子育て支援から離れて政策転換の必要も迫られている面があると思いますが、その必要性について、もし何かお考えがありましたら町長にお伺いしたいと思いますがいかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕議員の質問にお答えいたします。コロナ前は我々も出会いの場を設けたりとか、同窓会支援事業、またマッチングアプリの会社とも協定を結んでやったんですけども、なかなか時代が早すぎたというか、まだ認知されていない時でしたのでなかなか厳しかったです。また夫婦関係を良好に維持するための夫婦会議事業等もしてきてまいりました。今年度の町の支援施策として佐賀県が運営する、さが出会いサポートセンターの登録会費の助成や結婚した際の家賃や引っ越し費用を助成する新婚生活応援事業などを実施しております。こちら今日の西日本新聞の記事でございますが、自治体婚活いらっしゃいということで書かれております。AIでマッチング、ウェブ広告に力ということもありますが、片方でちょっと読ませて頂きます。新型コロナ禍が落ち

着き、自治体による官製婚活が再燃している。関連予算を倍増させてイベント数を増やし、マッチングに人工知能、AIを導入するところもある。異次元の少子化対策を謳う。国は本年度13億円の交付金を支給し、さらに拡充する方針。ただ、実効性を評価しづらい上、結婚し、子供を持つことが素晴らしいという価値観の押し付けに繋がるとして廃止した例もあるということである。他の自治体のこと書かれております。やはりこの問題は非常に大きな問題だと思っておりますので少子化、晩婚化をなんとかしなくてはいけないとは思いつつも、結婚が全てではないというところもありますので、そういったところの世の中のバランス等を含みながら、とはいえ、やはり子どもは増やしたいなという、多くしなければいけないなという思いはあります。やはり時代をしっかりと見据えながら有田町にふさわしい施策をやっていくべきだと思っております。

〔11番 蒲原多三男君〕ありがとうございます。未婚化、晩婚化へ向けての取り組みとして、若い世代を含む働き方改革や全体的な賃上げ、雇用の安定が必須になると思います。ただ、これらは総合的な施策の結果として徐々に効果が表れるとも考えられます。即効性のある対策を打ち出すことが難しい課題でもあり、長期課題ともいえるのではないかと認識を私もいたしておりますが、短期課題が効果を発揮するための地盤づくりとして長期課題への取り組みもまた欠かせないと思っております。少子化対策と併せての長期、短期のさらなる思い切った施策を期待いたします。長期課題については、国の施策との関連性が大きいので即答できるものは少ないと察しますが、そのような角度から町として取り組めるものを築いていければと思います。このことについて、もし将来的な考えがございましたらお尋ねを再度町長にいたします。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕お答えいたします。今後は、移住定住のためのタウンプロモーションの推進、また子育て世帯の定住促進のための宅地造成の支援、子育て支援では、出産祝い金や入学準備金などの独自の施策の実施と共に児童手当や保育医療費、障害児に対する支援など国の施策も合わせて実施して子育てしやすい町を進めていきたいと思っております。やはり議員が仰るように短期のことをしっかりとやりながら長期につながるような感じで持っていかなければいけないかなと思っております。今回、ニコッと給付金に関しましては、有田町独自ということでしっかりと効果を3年後ぐらいに判断して今後打ち続けていくべき施策なのか、それともほかのところに予算を付けた方がいいのかとかいうところもあります。今回、我々も思い切ってニコッと給付金に関しましては議会の後押しもありまして、判断させて頂きましたので、この辺はしっかりと皆さんと協議しながらさらに長期のアドバイスも議員の皆さんと協議しながら子育てしやすい有田町を作っていく

たいと思っております。

〔11番 蒲原多三男君〕ありがとうございます。最初の質問項目で触れました、今町長も言われた子育て支援の新たな施策につきましては、私ども全議員が各々の常任委員会で意見を出し合い、協議検討を重ね、それぞれの子育てに対する思いを議長、副議長が代表して執行部との意見と相互にやり取りをし、各議員の子育てに関する具体化施策につながったことは私は画期的な意味を持つものと思います。町の発展、成長にとりましても大事な長期短期的な課題につきましても町長への提言施策の構築へ繋がればと思いますが、今後の議会としてのやり取りもさらに拡大できればと思いますが、この点につきまして町長の所信がありましたら伺いたいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕先程の質問の中でもう答えたようなところもありますが、やはり皆さんとしっかりと協議しながら子育て支援等を考えていきたいと思います。このニコッと給付金の件が新聞の方に報道されてから私に喜びの声とやっぱりちょっとがっかりというか、反対の声もありました。私たちはもらえなかったのになんでという声も正直ありますので、そういったバランスも含めて考えていかなければ。片方のこっちを持つと、こっちが持たないというようなことでは、やはり町としてはなかなか厳しい状況もありますのでしっかり皆さんに公平になるような施策をやるべきだなと強く感じております。

〔11番 蒲原多三男君〕ありがとうございます。それも良く言われるんですが、若者支援がそのまま高齢者の福祉につながっていくという面ではですね、認識の面もまたあると思いますが、私たちもさらに町民の皆様のご理解と意見等を伺いながら進めてまいりたいと思います。2項目目の熱中症対策について伺います。気候変動の影響によりまして、国内の熱中症死亡者数は増加傾向が続いております。最近では、年間1,000人を超える方が熱中症で亡くなられておるとい自然災害による死亡者数をはるかに上回っております。今後、地球温暖化が進行すれば極端な高温リスクも増加するのではと言われております。そうなると熱中症による被害がさらに拡大する恐れがあります。こうした状況を踏まえ、今後起こりうる極端な高温も見据え熱中症の発生の予防を強化するための取り組みを一層強めていくことが必要だと考えます。パネル2を出して頂いてよろしいでしょうか。これはここ数十年の気温の平均上昇の上がり方と一番右端の上、こちら辺がですね、この23年、22年、21年、20年と最高をこの4年間で記録というか出しているということにつながります。3～4日前のNHKニュースでしたが、昨年2022年はその前の年、2021年と比較して熱中症による救急搬送が21年の5倍の数だったとの報道もありま

した。次パネルをお願いします。これが今言いました平均と最高の2021年以降の4年間で右端になります。次をお願いします。これが先ほど言いました左側の方が災害で亡くなられた方の数、右側が熱中症で亡くなられた方の数、右下に人口動態統計とありますが、これは、届けがあった部分というのと、掌握できている部分という意味ですので、2021年はさらにこの755人より増えるものと思います。そこで熱中症から住民の生命を守るための取り組み推進について伺います。熱中症は適正な予防や対処がなされれば死亡や重症化を防ぐことはできます。熱中症は人の命に係わることであるから、その熱中症対応マニュアルの作成、WBGT（暑さ指数）この暑さ指数というのも気温とは若干違いまして、アメリカで考えられた暑さ指数という数の出し方があります。その認知度の向上や行動変容につながる情報発信も必要と考えますが、いかが取り組みを考えられているかお尋ねをしたいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕健康福祉課長。

〔川崎健康福祉課長〕お答えいたします。これまでは環境省が作成している熱中症環境保健マニュアルを使用し、イベントなどの際の対策に役立てるよう関係各課にマニュアルを配布しております。また、暑さ指数に関しては基本だけでなく日射、輻射、風の要素を取り入れた指標で、熱中症への関わりやすさを示すものであります。この指数に基づき熱中症の危険性が極めて高いと予測された場合に暑さへの気づきを呼びかけ、国民の熱中症予防行動を効果的に促す、熱中症警戒アラートが発令をされます。これを受けまして、町は防災無線を通じて町民の皆様へお知らせをしております。しかしながら暑さ指数に関する具体的な説明等はほとんど行われていないため今後認知の向上に努めていきたいと思っております。

〔11番 蒲原多三男君〕国も暑さ対策の熱中症対策の施策を5月30日に打ち出しましたが、私が一般質問出したのは5月29日ですので、私を見て国が出したわけではないと思いますが、いづれにしても大きな取り組みのテーマであることには変わりないと思います。熱中症に対する予防への意識を醸成するための取り組みについて伺います。予防するためには脱水と体温の上昇を抑えることが基本であると言われております。ここで熱中症で亡くなる方の多くを占めている熱中症弱者と呼ばれる高齢者の皆様にも熱中症予防のための行動をさらに意識して頂くことも大事だと思います。高齢者の皆様は私も含めて高齢者ですが、ここも何人かいらっしゃいます。暑さやのどの渇きに対し敏感になっているケースもありまして、消防庁の調査によりますと、熱中症による救急搬送の約5割が高齢者となっております。川崎課長から頂きました有田伊万里におきましても搬送された方は平成元年から毎年増え続けているようです。このため高齢の方の熱

中症を予防していくために介護や地域保健部門の関係者が一体となって対策を進める必要もあると思います。そこで、高齢者の皆様に効果的な熱中症を進める、予防を進めるために、介護や地域保健部門との関係者との連携とか取り組みがありましたらお尋ねしたいと思いますがいかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕健康福祉課長。

〔川崎健康福祉課長〕現在の状況を報告させていただきます。この予防意識の取り組みに関しては、特に自分自身での体温調整の低下している高齢者を中心に広報紙面や民生委員を通じて予防意識の普及を図っております。しかしながら議員が仰るようにですね、今後は介護職、介護関係の皆様、ケアマネージャー、または先ほど仰った民生委員も然りですけど、在宅支援センターの皆様、高齢者のお宅を訪問されている方々にご協力を頂き、熱中症の予防の周知を図っていきたく思っております。

〔11番 蒲原多三男君〕さらに進めて頂きたいと思います。③エアコンの設備や点検を促す取り組みについて伺います。高温になった時にエアコンを入れても動かないとか、フィルターが汚れていて部屋冷えないとか、エアコンそのもののトラブルが命に及ぶ危険性もあると思います。熱中症による救急搬送車の発生場所の7割が屋内となっております。熱中症予防のためにはクーリングシェルターの整備に合わせ外出が難しい高齢者世帯のエアコンの点検や整備の推進も必要であると思います。脱炭素化の観点も組み入れたエアコンのクリーニングの普及促進等も大変重要だと思います。そこでエアコンの整備や点検の推進に向け積極的な勧奨も必要だと思います。さらにエアコンの利用控えについても合わせてお尋ねをしたいと思います。電気料金が高騰する中でエアコンの利用を控えたりする方も少なくないと思います。特に熱中症弱者と呼ばれる高齢者の皆様は節約の意識が高い方も多いと思います。そこで熱中症特別警戒情報が発令された時に躊躇なくエアコンのスイッチを活用できる環境の整備も必要かと思いますが、電気代の高騰への対応も含め低所得者等に対してあるいは高齢の方も含め適当な支援が適切な支援が必要だと考えますがこのことについてはいかがお考えでしょうか、2点お尋ねします。

〔今泉藤一郎議長〕健康福祉課長。

〔川崎健康福祉課長〕私の方から1点目の答弁をさせていただきます。熱中症による死亡者の8割以上が65歳の高齢者となっており、さらに屋内での死亡者のうち約9割はエアコンを使用していなかった、または、エアコンを所有していなかったことが明らかとなっております。先程議員が仰ったように熱中症対策実行計画5月30日に閣議決定をされております。その中でもエ

エアコンに関するシーズン前の早期点検や試運転の積極的な普及啓発を行うとありますので、その辺を十分認識しながら周知を図っていきたいと思っております。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕電力高騰等の支援ですけど、ちょっと直接電力に関係するわけではございませんが、総合的な支援としまして、国の電力・ガス・食料品等価格高騰対策商品券交付事業の方を行うように計画しております。今度の6月補正予算の方にも計上しております。これは町民1人当たり3,000円の商品券を交付する事業となります。また、低所得者世帯枠としてですね、住民税非課税世帯には3万円分の商品券を別に配布するように計画しております。以上となります。

〔11番 蒲原多三男君〕ありがとうございます。最後の質問になりますが、子どもの熱中症防止の取り組みについて伺います。学校における子どもの熱中症を防ぐための取り組みを伺いたいと思いますが、学校施設には小中学校等の普通教室における空調の整備はかなり進められたと認識しておりますが、普及率、整備率、分かれば確認の意味でお尋ねしたいと思いますがまずその点についてはいかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕学校教育課長。

〔福山学校教育課長〕お答えしたいと思います。町内の小中学校の普通教室につきましては、100%の設置となっております。

〔11番 蒲原多三男君〕ありがとうございます。これもですね、一般家庭と違いまして、また小中学校における電気代も相当なものだとは思いますが、電気代は足りていますか。

〔今泉藤一郎議長〕学校教育課長。

〔福山学校教育課長〕昨年からちょっとエアコンの使用の電気料がちょっと上がっておりますので、今年度当初予算の方で昨年よりかなりの金額の予算を計上させて頂き、予算を付けて頂いているところでございます。今のところ大丈夫かなと思います。ただ、今後の使用の状況で必要であればまた議会の方をお願いをするような形になるかと思いますが、今のところ大丈夫かなというふうに思っております。

〔11番 蒲原多三男君〕ありがとうございます。最後にですね、校内、あるいは授業、体育等についても常々気を図られていると思いますが、通学時、登校時、下校時の子どもたちの熱中症予防対策について何か取り組みされているものがありましたら伺いたいと思いますがいかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 学校教育課長。

〔福山学校教育課長〕 登下校時の熱中症対策といたしまして、ちょっとお答えさせていただきたいと思えます。熱中症につきましては、夏場、特に今ぐらいからですけども、特に暑さに慣れていない初夏ですね、には注意が必要ではないかというふうに思っております。熱中症の予防策といたしまして学校活動の部分と一緒になりますけれども、登下校時においても子どもたちには時々水分を補給する。日陰があれば日陰を歩く。日陰で休息をしながら歩く。帽子をかぶる。涼しい服装にする。それから保護者の方には熱中症対策の注意喚起をするなどの対策が必要であるというふうに思っております。

〔11番 蒲原多三男君〕 ありがとうございます。いずれにしましても大切な子どもさんの命を預かっている学校であると思えますので、過剰と言われるくらいの警戒、安全対策をお願いして、熱中症予防に対する質問を終わりたいと思えます。最初に言い忘れましたが、今回は私が最後ではなくて、執行部の皆さん、あと一人いらっしゃいますので、報告をしておきます。これで私の一般質問を終わります。ありがとうございます。

〔今泉藤一郎議長〕 11番議員 蒲原多三男君の一般質問が終わりました。10分間休憩いたします。再開は10時50分といたします。

【休憩10：39】

【再開10：50】

〔今泉藤一郎議長〕 再開します。13番議員 梶原貞則君。

〔13番 梶原貞則君〕 議長の許可を頂きましたので、13番 梶原貞則、本議会の一般質問最後の質問をさせていただきます。ご答弁の程よろしくお願ひいたします。今回の私の質問は、公共交通の利便利用促進についてと、安心安全で円滑な交通体系の整備をの2項目でございます。ご答弁の程よろしくお願ひいたします。まずは、公共交通の利用促進について、コミュニティバス及びデマンドタクシーの利用状況、そして推移について現在の状況をお教え頂きたいと思えます。

〔今泉藤一郎議長〕 まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕 まず、コミュニティバスの利用者数の推移になりますが、運行開始当初は年間6万から7万人ほど年間利用されておりましたが、平成26年度と28年に大山地区と曲川地区におけるふれあいタクシー、デマンドタクシーの導入に伴う路線廃止、ダイヤ改正により利用者数は減少し令和3年時点では年間3万人となっております。令和4年度の利用実績は年間約2

万6,000人と減少傾向が続いております。ただ、令和4年度につきましては、令和4年4月に行ったダイヤ改正の影響が、ダイヤ改正の方が影響していると推測されます。こちらのダイヤ改正につきましては、ドライバーの休憩時間確保等の労働環境改善が目的となっておりますので、これによって若干利便性が悪くなっている分があります。デマンドタクシー、ふれあいタクシーにつきましては、運行開始当初は大山エリアのみの運行で利用者数は年間1,200人程度で推移してましたが、平成28年7月に曲川地区が追加されたところ大きく利用者数が増加して、平成29年から令和元年までは年間約5,000人を超える利用者数となっております。コロナ禍の令和2年及び令和3年度には年間4,700から4,900人と利用者数は減少しましたが、令和4年度の利用者数は5,212人と回復傾向となっております。以上になります。

〔13番 梶原貞則君〕 運行当初は6万から7万人、現在はデマンドタクシーも入れて3万ちょっとという感じで半減しているわけですね。やはり今後ますます高齢化が進んでいく中で、この利用状況を見てもっと利便性を高めるとか、利用料金を見直すとかそういうことで利用者を増やしていく必要があると思われませんが、その点についていかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕 現在、年間約3万人程度の利用状況となっておりますが、今後、免許返納等です、利用者数の増加も考えられますので、ダイヤ改正とか運行状況の見直し等によって利便性を高めていく必要があるかというふうに考えております。

〔13番 梶原貞則君〕 免許返納者に対する特典とか、年間90人ずつぐらいの返納者がいるようですけども、その方たちの利用状況とかはわかりますでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕 免許返納者については一応料金の方半額という形で今現在運用しております。免許返納者の利用状況につきましては把握はできてないのが実情でございます。当初、免許返納者数がかなり少数でありましたのでちょっと臨時的な対応として、料金の方を半額としておりますが、今後利用者数が増える可能性がありますのでこの辺りの制度もちょっと見直しをかけようというふうに考えております。

〔13番 梶原貞則君〕 返納者は半額ということでしたら1日この200円が100円とか、例えばパス券、年間パス券が1万2,000円とか、6ヶ月パス券が6,000円とか、3ヶ月パス券が4,000円とありますけども、これも返納者は半額ということでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕 この分に関しても一応半額としておりますけど、ここについてもですね、すみません、今後ちょっと見直しの方、考えたいと思います。

〔13番 梶原貞則君〕 この利用者、半額券の例えば6ヵ月パス券の利用者、返納者の半額というのが何枚出たとか、そういうことが分かってないとか、利用がほとんどないとかそういうことでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕 現在、免許返納者の方が利用される件数がかなり少ない状況でございますので、ちょっとそこまでの把握はしてないのが現状でございます。ちょっと今後、免許返納者の方が増えることが想定されますので、そうなった場合、今まで免許を持たずに利用されている方と、免許を返納の方との公平性が保てなくなる可能性がございますので、あくまでも一時的な措置として考えておりました制度でございますので、この辺りのところをちょっと見直してくというふうに考えております。

〔13番 梶原貞則君〕 もう一つ、返納者の半額というのはデマンドタクシーも半額ということですか。

〔今泉藤一郎議長〕 まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕 はい。デマンドの方も同じような運用をしております。

〔13番 梶原貞則君〕 その利用の状況は分かりますか。

〔今泉藤一郎議長〕 まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕 こちらの方もですね、それほど多い状況ではございません。

〔13番 梶原貞則君〕 高齢化が進んでいく中でやはり今まで使っていない方がやはり使いやすい、まずは乗ってみようと思う時に、タダでもいいから例えば1ヶ月無料にするとか、返納者は1ヶ月、2ヶ月、または3ヶ月とか、無料にしてまず利用してもらおう。そして利用して良かったら後々使いやすかったのを使うとかですね。そういうとっかかりが必要であり、それがゆくゆくは利用者増につながっていくのかと思うわけですが。例えば、3ヶ月、または6ヶ月の無料、そして、その後は半年は半額でもいいし、2年後、3年後に元に戻すとかですね。そういうふうで利用促進のためのそういうふうな利用しやすい状況を作ってはいかがかと思うわけですがどうか。

〔今泉藤一郎議長〕 まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕 今年の1月から2月に県の事業で佐賀バスまるっとフリーデーとして、水曜

日と日曜日にバス無料デーが実施されて有田町のコミュニティバスも対象となっておりました。無料の日の利用者数は確かに増加しましたが、それ以外の日の利用者数が減少する傾向にあるという状況になりました。また、町の方でもですね、コミュニティバスを身近に感じてもらうために4月1日から2週間、コミュニティバス乗車無料キャンペーンの方を実施しております。こういった形で利用促進に向けた取り組みを行っていきたいというふうに考えております。

〔13番 梶原貞則君〕 その4月の2週間の利用状況が分かりますでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕 まだ正確な数字は出てませんが、それほど変わってないという状況でございますし、昨年も同様のキャンペーンを行っておりますけど、特に利用状況が増えたという状況ではないです。

〔13番 梶原貞則君〕 本当に最初からの質問でありますとおりに6万人、7万人から半分になっている。まずは3万人を4万人、5万人と増やすための施策をしばらくは打つような、先程申しましたように返納者への無料、何ヵ月かの無料、無料利用とかですね、そういうことで促進策を行ってはいかがかと思うわけですが、町長どう思われますか。

〔今泉藤一郎議長〕 町長。

〔松尾町長〕 やはりコミュニティバスとかデマンドは、利用者が半減してますので増える施策をしなくちゃなと思っております。今後はやはりDXも絡めながらそういったものを利活用していけるような展開を考えていければなと思っております。実際、今、電気自動車とかいろんなことで提案を受けてますので、有田町に合うような提案がありましたらそちらの方と一緒に考えていきたいと思っております。

〔13番 梶原貞則君〕 朝方の忙しい時は案外一杯乗っている時もあるようですが昼間は少なくて1人、2人しか乗ってないとかそういうこともよく聞きます。できるだけ利用促進して、タダでも何人かでも乗せてみてですね、それについてガソリン代がそうは上がらないと思いますので、利用促進のためのそういう無料の施策とかをぜひお願いしたいと思います。また、これは土日でも走ってますけども、土日は最初の導入からやっぱり観光に使うというようなことで今でも旧有田町の中を走っているわけですが、観光のために1日パス券、1日乗り放題500円とかありますけども、その利用状況はいかがでしょう。

〔今泉藤一郎議長〕 まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕 現在、コミュニティバスの方は土日に限っては別路線の方で運行をしております。

ます。こちらの方がどちらかというと観光向けの方に路線の方設定しておりますが、なかなか利用状況の方が伸びない状況でございます。また1日パス券につきましても、ほとんど利用がないという状況になります。

〔13番 梶原貞則君〕観光協会のページから見てみますと、コミュニティバスが利用できるというページがあります。この2台大きいバスと小さいバスとありますけど、大きいバスの方は導入した時に観光のために有田の絵柄を付けようということで募集して、有工生とかいろんな方々が応募して、多分、香蘭社のデザイナーの方のデザインが採用されて青海波とかイチョウの葉とか、そういう有田らしい絵柄になっていると思います。古伊万里文様とかいろんなことも考えられますけども、やはり有田らしいバスの文様ですね、そういうことで有田にふさわしい絵柄のバスが走っている。ハウステンボスではハウステンボスとか、その町にふさわしいものがあるわけですけども、有田ならではのバスの絵柄、ラッピングをもう一つ考えていいのかと思うわけですけども、町長いかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕今、議員ご指摘の観光バスのラッピングとかいうことも今後は考えていきたいなと思っておりますし、また、観光バス以外でも町の公用車等も有田らしいラッピングができるのはしていければなと個人的に思っております。

〔13番 梶原貞則君〕自転車ですね、貸す自転車ありますけども、あれも最初のころからタコ唐草の絵柄をちょっとだけ付けるとかですね、今、最初からしております。やはり有田らしい、さすが有田だなというようなそういうことも是非考えて頂きたい。また観光面でもぜひもっとPRしていけるように課長いかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕現在、コミュニティバスにつきましては、町所有のバス2台の方で運行しております。そのうち基本的にはラッピングした形の状態で今運行しているわけですけど、今後、更新、バスの更新時期が来ましたらラッピングの件も考慮して更新の方かけていきたいと思いません。

〔13番 梶原貞則君〕ぜひ利用状況が増えるように、また利用しやすいコミュニティバスになるようによろしく願いいたします。続きまして、安心安全で円滑な交通体系の整備をということで、広瀬方面から役場方面へ円滑に行けるための道路整備をということでございます。昨年、3月にセラミックロードの有田から伊万里有田共立病院までの区間が開通いたしました。共立病院まで

のアクセスも大変良くなったわけですが。ただ、セラミックロード側から西側ですね、西側からこの線路をまたいで202号線に行く道、そのアクセス道路は間何箇所もあるわけですが。多くの道路は交差点が狭かったり、MRと202号線が近すぎるなどの理由で大変スムーズに入りづらい交差点が多い状況であります。写真で説明いたしますと、ここは蔵宿南の交差点、蔵宿駅がこちら左側ですね、こちらが佐世保側ですね、交差点であります。押しボタン式の信号がありますけども。202号線から線路まではほとんど車1台しか入れない状況、また横幅もほとんど離合ができない、また渡ったあと、向こう側の西側の道路も幅が狭く離合がしにくい状況でございます。また次、ここは蔵宿から上内野へ行く交差点、4差路ですね、ここにも押しボタン式がございます。ここも先程よりは幅広いですが、なかなか離合しにくいぐらいの幅でございます。また、向こう側奥の西側も幅が狭い、離合がしにくい交差点ですね。次にここ西有田中学校の入口の三差路、手前側にガソリンスタンドがあるところですが。ここは信号が全くございません。幅はありますが、踏み切りと道の幅が狭くて1台しか入れない、向こう側から待っていると、1台行ってやっとまたここまで入って待っているという状況でございます。また奥の西側の方も道はあまり広くなくて離合もあまりしやすいところではございません。次にここは山本入口の交差点。ここは押しボタン式の信号がございます。ただ、幅が狭くて離合がしにくい。西側の道路も幅が狭い、離合がしにくい状況でございます。次に、ここは大木駅南。龍泉寺の入口のところの交差点ですね。踏切はなくて高架式になっておりますけども、押しボタン式の信号はございます。ただ、幅が狭くここ離合はできません。西側の道路もかなり狭いですね。次にもう少し北側で大山農協の南側ですかね。ここも高架式ですが信号はございません。幅が狭く離合できないことはないですが、案外狭く、広くはないですね。奥の方の道はここだけが2車線あるような状況ではあります。こういう今6箇所紹介しましたが、本当に出にくい交差点ばかりでちゃんとした歩道もあり道幅があるような交差点と言えば北ノ川内、南は北ノ川内の交差点ですね、すみません、見にくいんですけども、この黒川からの、曲川小学校からの西側の交差点ですね。ここは信号がある。そして北の方は山谷交差点になります。ここまでの距離は約3.4キロということで。この間の先程紹介しました6箇所の交差点全てがなかなか202号に出るには難しいような、また長く待たされるようなことが多い交差点でございます。有田町と西有田町が合併して17年、私も最初の頃は自宅から役場まで最短距離で広瀬を經由して西中の前を通って、西中入口交差点を通って役場まで来ていましたが、以前よりやはり202号線の利用状況、交通量が増えてきたのではないかと考えております。かなり待たされることが多くなって

きました。昔も有田町、西有田町が合併する頃も広瀬方面から、仏ノ原から202号線へつなぐような道路の計画があったと聞いております。今までもいろんな論議がちょこちょこあってきたと聞いておりますけど、そのことについてわかりますでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕建設課長。

〔館林建設課長〕お答えいたします。合併当時に先程申されました仏ノ原の下内野踏切付近につきましては、仏ノ原橋から国道202へのアクセスということで協議を重ねておりましたが、その際も先程議員さんが仰られたように国道202と鉄道の間隔が非常に狭く停車スペースがないということで国道を、そうですね、西側の方に振る案とかいうものを提示したりしながら国土交通省の方と協議をしましたが、国道が今現在は真っ直ぐなのにそういう曲げてもらっては困るということで、国道側からの指導としてはループがいいんじゃないかという案も出されました。ただ、ループの案というものはちょっと莫大な橋梁区間も長くなり、鉄道とのクリアランスの4.5メートルも確保しなければいけないということでかなりの延長とかなりの事業費になるということで断念した次第です。

〔13番 梶原貞則君〕そのほかに、ここは広瀬からのセラミックロードにつなぐ交差点ですけども、ここから先程説明しました山本入口までの交差点ですね。あそこへ繋いでどうかとか、そういうことも論議されていたと聞いております。やはり役場、広瀬からまっすぐ行った役場方面ですね、この間の近い人ほど不便を感じるわけですね。遠い人は大体が遠い人は、こう回ってくればいいわけですけども、これからどんどんやはり高齢化が進む中、私も以前と比べてやはり視力が悪くなったりとかちょっとした時にヒヤッとすることがあると。もし道を道路を造るにはその必要性の論議から始まり、構想、計画、地元説明、土地収用、そして工事と手順を踏んでいく必要があります、本当に完成まで15年、20年、あるいは25年と日数を要すると思います。現在本当に今年から考えていって20年いった時にほとんどの方がもう高齢者、運転できないかもしれませんですね。そういうことです。本当に、こう、特に地域の方達も高齢化が進んで危険性がますます増すわけでございます。高齢化、今、30何%ですけども、40%超えているかもしれません。そういう将来を見越した想定したインフラの整備、交通体系の整備を今から考えていく必要があるかと思っておりますけども、そのことについて町長どう思われますか。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕お答えします。今の質問ですが、この計画に関しましては、我々も何も考えていないわけではなくて、私も町長になった時から常に考えてくれということで今、話をしております。先

程、お示し頂いた6箇所ぐらいの曲川の交差点とか、三差路ですね、ああいうところもすべて考えますが、やはりどうしてもMRの線路があります。あと川がありますので、橋梁も橋を造るとかいろんな経費等もありますが、やはり私が議員になったばかりのころ、ある議員さんは夢の懸け橋ということでお話もされておられます。今、議員がご指摘のとおり広瀬からやはりぱっと役場に行く道がないのは大変不便だなと思っておりますし、もし災害とかいろんなことがあった時に詰まってしまっただけでは意味がないので、その血流を良くするとかですね、そういったことは必要性は感じております。今、担当課の方にも一生懸命検討をしてもらっております。先程20年来ということではありますが、30年来ぐらいの夢というか、皆さんのニーズだと思っておりますので、我々もできるだけいろんなことを対応しながらですね、必要性は重々わかっておりますので構想を練って計画になるように早く手を付けていければなと考えております。

[13番 梶原貞則君] ありがとうございます。やはり町が先に構想、そして計画をしっかりと立てて、そして国や県に働きかけていく、そうしていかないとどこにどういう道を作るんだということになるわけでございます。是非、論議を早急に尽くしてして頂きたい。今セラミックロードが共立病院までつながり、それが伊万里までつながっていくわけです。また、9番議員の質問でもありましたとおりに、黒牟田入口、原宿線ですね、あそこも繋がっているところが便利になっていく、その中でここら辺も昔から構想はある中で進んでいかない、そういうことをやはり今、早急に構想計画を立てることをお願いいたしまして質問を終わらせて頂きます。ありがとうございます。

[今泉藤一郎議長] 13番議員 梶原貞則君の一般質問が終わりました。昼食のため休憩いたします。再開は13時といたします。

【休憩 11 : 17】

【再開 13 : 00】